

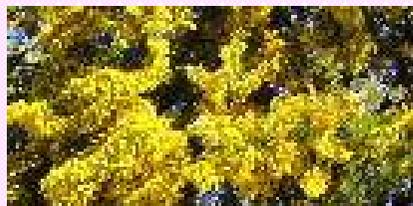
# 泉の森 なんでも情報館

2014年 春号 (No. 13)  
発行 しらかしのいえボランティア協議会  
エリアマップ作成班

## クローズアップエリア 親水広場とグリーンアップセンター

春の見ものは、なんとと言ってもシバザクラのピンクのじゅうたん。つい、こちらに目を奪われてしまいますが、まずはひと回り。何となく気になる場所やモノがいろいろありますよ。グリーンアップセンターって何するところ？ 売店の裏に風車？ 信玄公考案の農業用水システムとは？ “大和市の花”も静かに出番を待っています。

ミモザの大木がありました。 P. 3



風車 P. 3



三分一の水路 P. 2



グリーンアップセンター P. 2



ふれあい広場の花壇もお忘れなく。  
15,000株のチューリップが勢ぞろい。



大和市の花・野菊 P. 4



ハーブの花も見に来てね



名物・シバザクラのじゅうたん P.3

## グリーンアップセンター ～都市緑化の拠点～

大和駅からプロムナードを経由して15分ほどのところに緑豊かな広々とした公園があります。ふれあいの森です。この公園は、平成元年に大和市が策定した引地川水系自然公園基本計画の一環として造られたものです。引地川をめぐる4つの公園の設立を目指した同計画では泉の森が「自然の核」と位置づけられ、自然の保全が大きな目的になっているのに対して、ふれあいの森は「コミュニティの核」とされ、一般的な都市公園の色彩が強い緑地になっています。ふれあい広場や親水広場、みどりの見本園そして自然護岸に戻した引地川などがあり親しみやすい公園です。休日にはバーベキューを楽しむ若者や家族連れもいて、特に桜の季節には多くの人で賑わいます。

グリーンアップセンターはふれあいの森の中心に位置し、「みどり豊かな潤いのあるまちづくり」＝都市緑化の拠点として、大勢のボランティアとともに公園内の草花、樹木、花壇などの手入れや施設の管理などを行っています。みどりの見本園には各種の樹木、草花のほか生垣の見本までつくられています。また同センターでは草花園芸、庭木やバラの手入れなどの教室が随時開かれているほか、専門の相談員が答えてくれる「みどりの相談コーナー」もあり、市民にみどりに関する知識やノウハウの提供を行っています。私もここでツバキの病気について相談したところ、とても親切・丁寧に教えてもらいました。しかも無料です！



職員は作業員も含め10人、ボランティアが現在約70人います。ボランティアは毎週木曜日に集まって球根の植え付けなど花壇の手入れを中心に活動しています。花壇のチューリップはおよそ15000株もあるので球根の植え付けだけでも大変な苦勞だそうです。我々が普段なにげなく見ている美しい草花も、陰で支えている人たちの努力のお陰なのですね。

(橋本幸夫)

取材ではグリーンアップセンターの鈴木宣夫様にご協力をいただきました。有難うございました。

## 「三分一」ってなあに？

親水広場の小高い丘の上、グリーンアップセンターのすぐ近くに「ここでは武田信玄の三分一（さんぶいち）の考え方を利用して水を三つに分けています」との説明板が立っています。

最近では親水広場に水が流れていることがないので何のことだか分かりにくいのですが、調べてみると、戦国時代に、武田信玄が、水争いが絶えなかった3つの村に公平に水を分けようということで、水路に三角形の石柱を置いて水を三等分したという伝説があるのです。現在でも八ヶ岳南麓に「三分一湧水（さんぶいちゆうすい）」という史跡が残っています。そこは水量豊富で日本の名水百選にも選ばれているところですが、確かに、山からの水が三方の水路にうまく分かれて流されています。親水広場の「三分一」にも三角形らしい石が中央に鎮座しています（下の写真）。けれども肝心の水が流れていないので見ただけでは何がなんだか分かりません。

この親水広場の水は井戸からの汲み上げ地下水で、ポンプで循環させる仕掛けになっているそうです。その井戸もある会社社長が寄付したのですが、最近では不具合のため使われていません。親水広場にはサイフォンの原理を利用した深さが変化する3つの池や、石組みの立派な滝などがあり、水が流れていればもっと楽しい、遊べる、素晴らしい広場になると思うのですが、今のままでは宝の持ち腐れで、もったいないことだと思うのは私だけでしょうか。

(橋本幸夫)



左の写真：親水広場から見たグリーンアップセンターの建物。リゾート地のモダンなチャペルか美術館のような雰囲気です。

## シバザクラ

(ハナシノブ科 フロックス属)

春の親水広場を彩る、斜面いっぱいのシバザクラ。この花は北アメリカ原産の園芸植物です。サクラに似た淡桃・赤・薄紫・白色の花をグランドカバーとして咲かせます。ふれあいの森ではピンクと白色が咲き誇ります。ところが、今年は寒さがいつまでも続くので、ふれあいの森のシバザクラは3月の末にはまだ咲いてはいません。昨年3月末には右の写真のように見事に咲いていました。昨年の猛暑のためか、株が弱り、この春になって新苗を植え付けました。(藤井和子)

毎年のように「ワー、今年もきれいなあ！」で終わりですが、こういう声を聞くためには人知れぬ苦労があるのですね。シバザクラの手入れをされている皆様、お疲れさま！ありがとう！（見物客の一人）



## 親水広場の風車

親水広場の売店の後ろに立つ風車（右の写真）。風に吹かれてカタカタと音を立てて回っていますが、何をしている風車なのか、ご存知の方は少ないのでは？ 実は風の力で地下水を汲み上げ、近くのトイレの横にある小さな池に水を満たしていました。現在、水の汲み上げは休止していますが、風車は相変わらず軽快な音を立てて回っています。（小林みどり）



## ミモザの思い出

親水広場に、春になると鮮やかな黄色の花が枝いっぱいに咲くミモザの木があった。

周囲の木々がまだ枯れ木のような冬の装いの親水広場で、ミモザは豪華な金色の花冠によって、そこだけ春が早めにやってきたような明るい雰囲気漂わしていた。このミモザというちょっと洒落た名前の木の美しい花を見ると、また春がやってきたということを実感したものである。

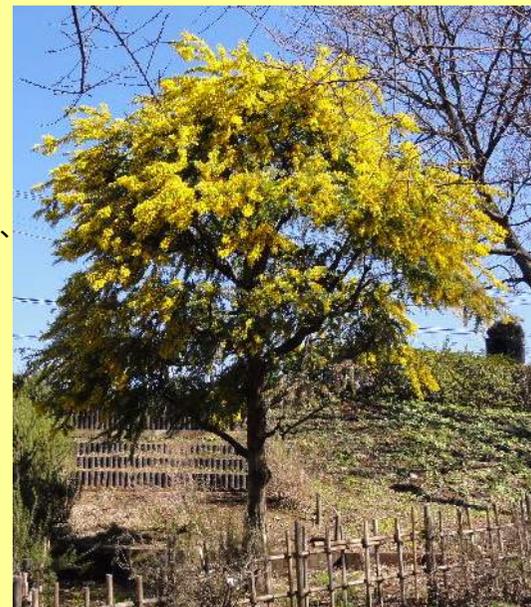
そのミモザの木は昨年の秋の台風で吹き倒されてしまった。ミモザはマメ科の植物で根が浅いのだそうである。グリーンアップセンターのハーブ教室の生徒さんたちが卒業記念に植えたミモザだが、やはり風には弱かったようだ。

美しい花を咲かせる大きな木も、一たび大風が襲えばたちまち吹き倒されてしまう。2月の大雪では泉の森の樹木は枝が折れるなど大きな被害が生じた。自然の恵みを受けて成長する樹木は、また、一方では常に自然の脅威にさらされているのだ。

あのミモザのDNAを受け継いだ幼木が大和駅方面の入口に植えられている。そのか細いミモザが、自然の脅威に屈することなく、すくすくと育ち人々の目を楽しませる黄金の花を咲かせる日が来ることを心から願っている。

(橋本幸夫)

写真：倒れる前のミモザ。こんなに立派な木でした。



## ようこそ、泉の森へ！ …夏の使者・ツバメ

泉の森で冬を過ごしたカモやツグミたちが北国へ旅立つと、入れ替わりに東南アジアなどからツバメが渡ってきます。特に鳥に興味はないけどツバメぐらいは知っている、という人も多いでしょう。

毎年3月中には、第一陣が相模川などにやって来ますが、泉の森で姿を見るようになるのは4月に入ってから。「燕尾服」の由来となった細長い尾を巧みに使い、ほとんどいつでも上空を飛び回っていますが、しらかしの池では水面ぎりぎりの低空飛行が見られます。その姿を双眼鏡で追ってゆくと、時々水面にタッチしているのがわかります。ほんの一瞬で水を飲んだり、翼や尾で水面をたたいて水浴びをしているようです。

ツバメは雄のほうが尾が長いのですが、尾が長ければ長いほど雌にもてるそうです。一方、尾が長いツバメほど、障害物にひっかかる等の事故に遭う確率が高いため、平均寿命が短いという説もあります。ツバメの世界では「美男薄命」のようです。

ツバメが日本へ来る目的は、巣を作って卵を生みヒナを育てること。巣は、街中の建物や線路のガード下などに作ります。そうなんです。ツバメの子育てには私たち人間の協力が不可欠なのです。最近では「不衛生だから」と巣が落とされてしまうことが多く、これが、カラスによる卵やヒナの捕食と並んで、ツバメの大きな脅威となっています。

昔は「虫を食べてくれる益鳥」「巣がある家にはいいことがある」などと言われ、大切にされてきたツバメ。ツバメはちっとも変わっていないのに、人間の心がおかしくなってしまったのでしょうか。この夏、あなたの家にツバメが巣を作り始めたら、落としたりせずに暖かく見守ってやってください。そのために命がけで、海を渡って来たのですから…（小林みどり）



ツバメ：新井洸三氏（川崎市）

## 半年後、お会いしましょう…大和市の花・野菊

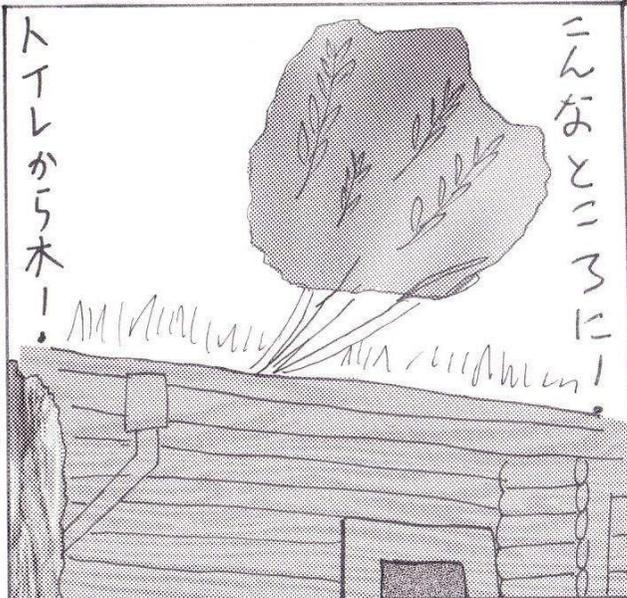
大和市の木・花は昭和44(1969年)年2月1日、市制10周年記念事業の一つとして公募により決定しました。市の木には401通の公募があり、山茶花、木犀などの中から桜が271通と一番多く選ばれました。桜については、「最も美しく、広く親しまれている山桜」と。市の花は、409通の公募があり、ツツジ、ナデシコなどの中から菊(169通)が選ばれました。菊については「自然な美しさを持ち、野生の趣がある野菊」とコメントがあります。野菊にはカントウヨメナ・ユウガギク・ノコンギク・シラヤマギク・シロヨメナ・リュウノウギクと7種ありますが、ここ大和市ではリュウノウギクは見られないようです。親水広場のいちばん上、「大和市」の花文字がある花壇に、カントウヨメナ、ユウガギク、ノコンギク、コンギクの4種が植えられています。

- \* カントウヨメナ:キク科ヨメナ属 関東地方以北に自生。ユウガギクと似ていますが、葉が狭くて、切れ込みが小さく、触るとしっとりしています。
- \* ユウガギク:キク科ヨメナ属 湿り気の多い場所を好み、泉の森の「マムシ池」周辺には自生しています。若い葉を茹でて水にさらして、お浸し、和え物にすると美味しいとされています。葉が薄く、触るとざらつくことでカントウヨメナと区別します。
- \* ノコンギク:キク科シオン属 湿り気の少ない場所を好みます。
- \* コンギク:キク科シオン属 ノコンギクの園芸品種で、花色は青く、枝分かれが多く、花つきも良いです。古くから観賞用として栽培されています。
- \* シラヤマギク:キク科シオン属 カントウヨメナやユウガギクに比べると花卉の数が少なく、まばらについていることもあって、花姿は粗野な印象があり区別はつけやすいようです。
- \* シロヨメナ:キク科シオン属 名前にヨメナと付いていますがシオン属です。林縁の半日蔭の場所に自生。花が他の野菊より一回り小さいので(径1.5~2cm)区別が付きやすいです。数種の変種があり、神奈川県には葉が細い「サガミギク」が分布しています。
- \* リュウノウギク:キク科キク属 日当たりの良い林縁や斜面などに自生。他の野菊より花期が遅く晩秋に花をつけます。葉に「龍脳」に似た香りがあるのが特徴です。  
(藤井和子)

次号は7月頃発行の予定です。どうぞお楽しみに！

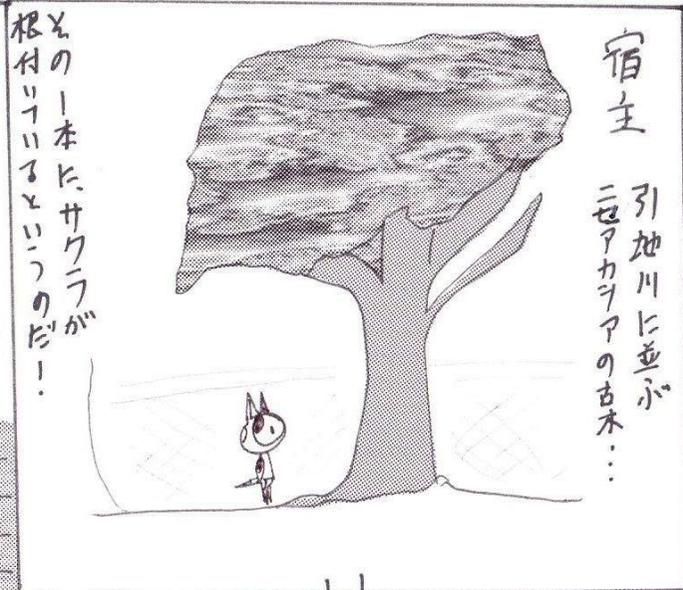
# なんでも休み時間⑦ ナニサコレ? 珍百景

(中小田美希) 5



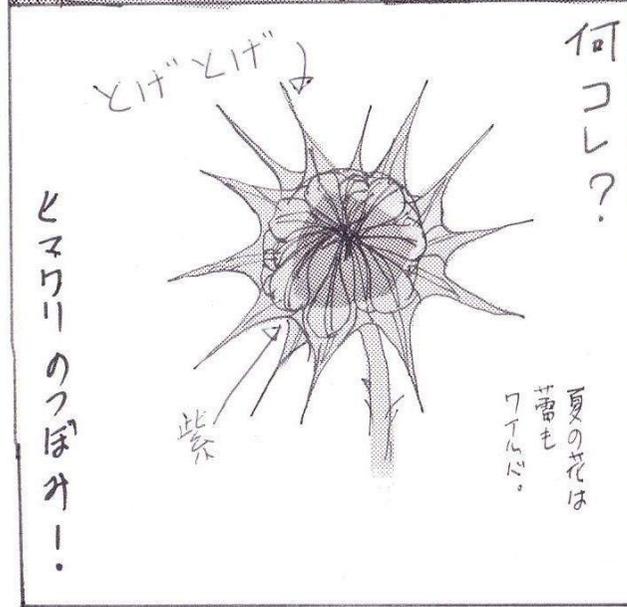
トイレから木!

みんなとニろに!



宿主  
引加川に並ぶ  
ニロアカラアの木...

その一本に、サクラが  
根付いているといっのび!

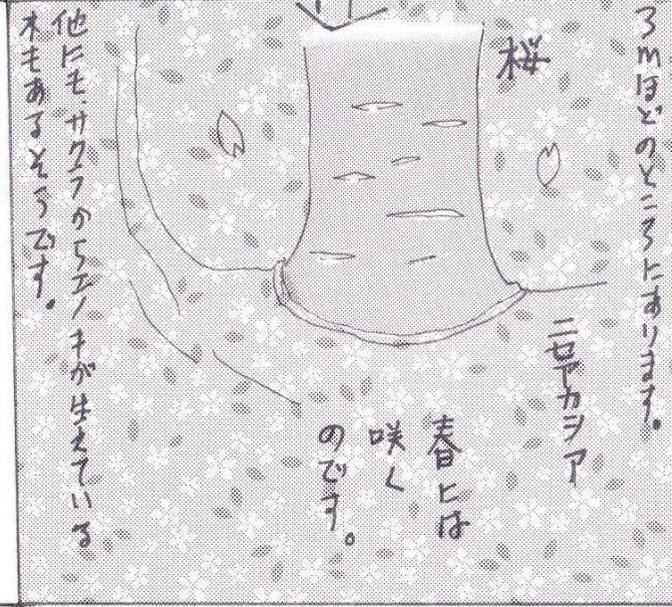


とけ"とけ"

とまわりのつぼみ!

何コレ?

夏の花は  
ササモ  
ワイルド。



桜

春はほ  
味く  
のです。

ニロアカラア

3Mほどのとろとろとあります。

他にもサクラからエノキが生えている  
木もあつたそうす。



泉の森とつながっている「ふんあいの森」  
藤棚や根並木、チーリーブ、畑、バラ園  
公園です。さて、

ドーブ園など、ゆっゆりくつろげる  
公園です。さて、



ふんあいの森にある「ナ」がここを  
捜しに行きましょう。

捜しに行きましょう。

2)

なんでも休み時間 ⑧ 我輩は梅である

(中)小田美希 6

思わぬ叫んでしまうのか  
聞こえただろうか

UGH!!!

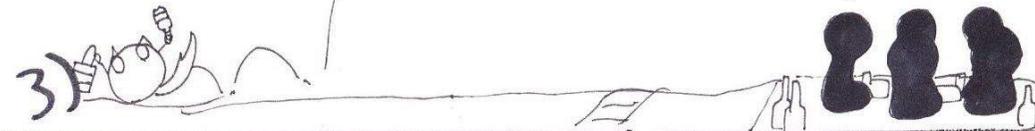
ケホ

しかし薄紅の春の頃、人は  
ワガハの肺に芽は了根に青キ  
布を心まき、首を絞める。  
ワガハの寿命は湯刃にちぢむ。



ワガハは十何年とミニに  
立っている。

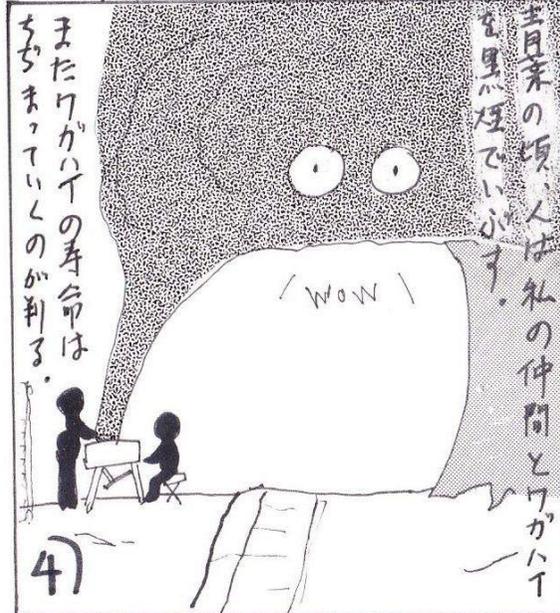
ワガハはふいふあいの木林の  
梅である。名前はまだない。



憎みまぬ  
生き物なのだ。

しかし、人はワガハと、仲間を。  
梅を愛する。特別にワガハ共を  
理解しようとする人まいる。

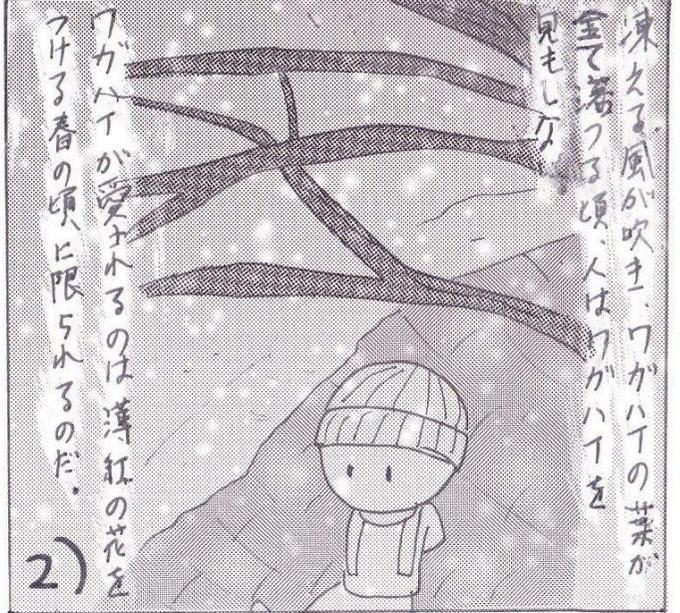
終



またワガハの寿命は  
ちぢまっていたのか判る。

去る頃の頃、人は私の仲間とワガハ  
を黒心でいひます。

4)



ワガハが愛するものは薄紅の花を  
つけたる春の頃に限らぬのだ。

凍える風が吹き、ワガハの葉が  
全て落つた頃、人はワガハを見  
て見もしない。

2)